令和６年度　千葉県における「かつお（中西部太平洋条約海域）」に係る資源管理協定の取組の効果の検証結果（中間）

（１）千葉県におけるカツオの漁業実態

千葉県におけるカツオは、外房海域において主にひき縄によるつり漁業で漁獲される。周年操業しているが、主に 10～4 月に漁獲されている。

（２）資源管理の目標及び目標達成のための具体的な取組

①目標（資源管理基本方針に定める目標）

中西部太平洋まぐろ類委員会での合意等に従い、暫定的に、漁獲がないと仮定した場合の親魚資源量の近年平均値の 50 パーセントの値とする。

②該当する資源管理協定

「かつお（中西部太平洋条約海域)」に関係する資源管理協定（以下、協定という。）は、下表のとおりで、7 漁協所属の約 70 名が、カツオを対象とした、それぞれの協定に参加しており、このうち本検証の対象となる協定は、3 協定（4 地区）となっている。

協定	備考	協定	備考	協定	備考
東安房（白浜地区）	◎	鴨川市		御宿岩和田	
東安房（和田地区）	◎	新勝浦市		銚子市	
東安房（天津・小湊地区）	◎				

◎　本検証の対象協定

②自主的取組

つり漁業では、休漁日や操業時間の制限を設ける取組を行っている。

また、漁業者と千葉県水産総合研究センターとの共同調査による資源状況結果等に合わせ、資源管理の取組を実施している。

（取組一覧は、下表のとおり）

漁業の種類	資源管理の取組	取組の内容	備考（該当する協定）
つり漁業	◎休漁日の設定	第 1・第 3 土曜日	東安房（白浜、和田、天津・小湊地区）
	◎操業時間の制限	午後 3 時までに市場へ水揚げ	東安房（和田地区）

◎　協定に記載されている取組

（３）資源管理の効果の検証

本県における漁獲量は、1984 年に過去最高の 6,179 トンとなった後，減少傾向にある（図 1）。また、令和 5 年(2023)度の国際的な資源評価では、資源状態は乱獲状態でも過剰漁獲でもないとされており、本国における漁獲量は、概ね横ばいとなっている。協定参加者による検証（以下、「自己点検」という。）では、漁獲量と CPUE（単位努力量あたり漁獲量）は、3 協定中 2 協定で減少、1 協定で維持と判断している。減少と判断する主な要因は、水温や潮流といった海洋環境の変化と考えている。また、魚価（単価）は 3 協定中 2 協定で維持、1 協定で低下と判断している。

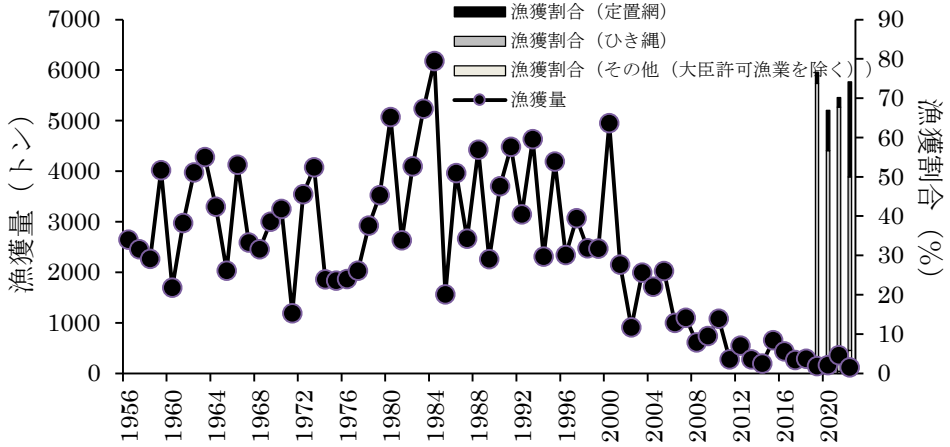

図 1　カツオ漁獲量と漁業種類別漁獲割合

（海面漁業生産統計調査）

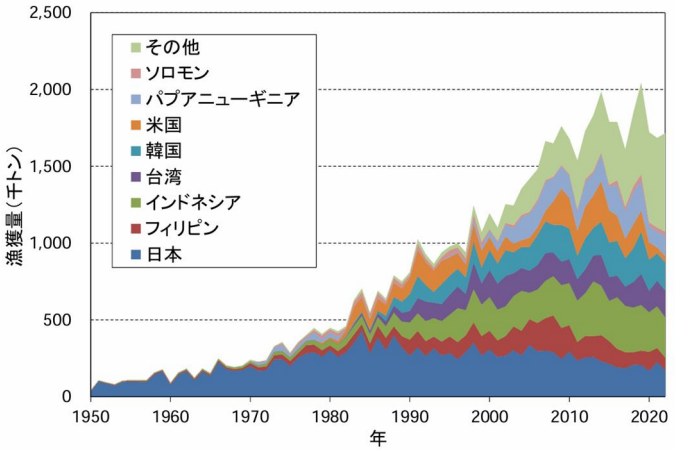

図 2　中西部太平洋におけるカツオの国・地域別漁獲量の推移

（水研機構 HP　令和 5 年(2023)度　国際漁業資源の現況 カツオ中西部太平洋）

（４）効果を高めるための協定の改善・高度化の検討

カツオは、現在の国際的な資源評価では、良好な資源状況であるが、近年は国内の地域によって好不漁の差が大きく、国の資源評価結果と本県漁業者の評価が異なったと考えられる。今後も現行の取組を継続しつつ、国際的な資源状況及び国内で求められる資源管理措置等を踏まえ、取組内容を検討していくことが重要と考えられる。

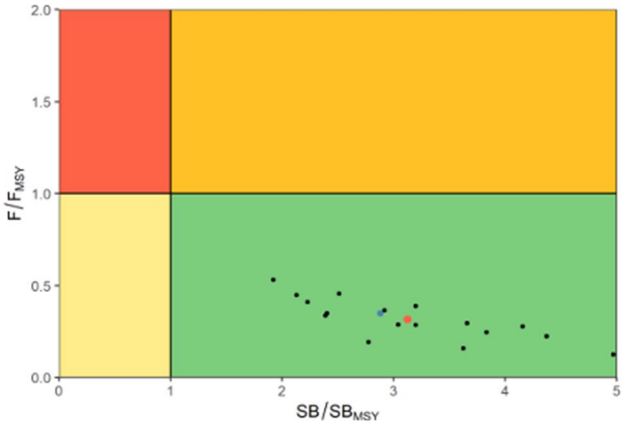

図 3　漁獲圧と産卵親魚量関係

（水研機構 HP　令和 5 年(2023)度　国際漁業資源の現況 カツオ中西部太平洋）